

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

| | |
|------|-----|
| 保険者名 | 大仙市 |
|------|-----|

| | |
|------|------------------|
| タイトル | 高齢者の自立支援、介護予防の推進 |
|------|------------------|

| | |
|-----|--|
| 大目標 | ・地域が目指すべき姿 など 高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができている |
| | ・目指すべき姿を実現するための具体的な目標 認知症の方が自分らしく地域で暮らし続けることができる 高齢者が活動的に暮らすことができる |
| 中目標 | ・目標達成のための具体的な施策 など 地域の方の認知症についての理解を向上させる 地域の高齢者の外出頻度が増える |
| | |
| 小目標 | ・目標達成のための具体的な施策 など 地域の方の認知症についての理解を向上させる 地域の高齢者の外出頻度が増える |
| | |

| |
|---|
| 現状と課題 |
| <p>厚生労働省の平成30年の推計によると、65歳以上の高齢者の約7人に1人が認知症と見込まれており、本市に当てはめると4,300人以上となります。さらに軽度認知障害（MCI）の推計を合わせると7,500人を超え、高齢者の実に約4人に1人が認知症又はその予備軍ということになります。認知症は多くの方にとって身近なものであり、正しく理解してもらうための普及啓発が課題となっています。</p> <p>また、日常生活圏域ニーズ調査の今後充実してほしい高齢者施策において、「健康づくりや介護が必要にならないための予防支援」が上位に位置しています。高齢者一人ひとりによって心身の状態は異なり、運動・口腔機能の向上や栄養改善及び認知機能の維持向上に関する取り組みが必要です。これまで、高齢者の通いの場（サークル・サロン等）づくりを推進してきましたが、同調査の結果から「健康についての情報に关心はあるが、グループでの活動には参加したくない」方も一定数おり、個人で参加し運動に取り組める機会の創出も課題となっています。</p> |
| 具体的な取組 |

| |
|--|
| 〈認知症サポーター等養成事業〉 |
| 認知症について正しく理解し、地域や職域（商店や金融機関等）、学校教育において、認知症の方や家族を手助けする認知症サポーターの養成講座を開催します。また、養成講座受講者が講座で得た知識を生かし、地域の助け合いの担い手として活躍できるよう、更なる知識の習得と受講者同士が意見交換できる機会を設け、インフォーマルな地域の支え合いの体制を構築していきます。 |

〈介護予防普及啓発事業〉

【健康めえるが（見える化）測定・相談会】 ※令和6年度からの新規事業

地域の高齢者が、身近な場所において自身の体力や加齢に伴う運動機能の状況を把握できる機会として実施します。測定会では筋力・栄養・口腔状態・生活活動・目や耳等について測定やチェックリスト等を用いてフレイル・プレフレイルのチェックを行います。その測定結果をもとに、個人の状況や希望に合わせて通年型運動教室や栄養教室等に繋げて、フレイル・プレフレイル状態の改善を図ります。

より多くの高齢者に参加していただけるよう、収集型と出張型の2パターンで実施します。

【通年型運動教室 シニアいきいき体操塾】 ※令和6年度からの新規事業

健康に関心があり、個人で介護予防に取り組みたい市民に運動できる場を提供する。

健康運動指導士による運動や定期的な体力測定、保健師・管理栄養士等による個別相談を実施します。

目標（事業内容、指標等）

認知症サポーター養成講座受講者数の増加を目指す。

| | 実績 | | 見込量 | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 |
| 養成講座 | | | | |
| 累計受講者数 | 7,431人 | 7,734人 | 7,850人 | 8,000人 |

通年型運動教室参加者延人数の増加を目指す。

| | 実績 | | 見込量 | |
|---------|------|------|------|------|
| | R5年度 | R6年度 | R7年度 | R8年度 |
| 通年型運動教室 | | | | |
| 参加者延人数 | — | 424人 | 540人 | 540人 |

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法
 - ・認知症サポーター養成講座の受講者数の把握
 - ・通年型運動教室参加者延人数の把握

取組と目標に対する自己評価シート

保険者名 大曲仙北広域市町村圏組合（大仙市）

年度 令和7年度

前期（中間見直し）

実施内容

- ・認知症サポーター養成講座 （前期 開催回数：5回、受講者数： 90人）
- ・通年型運動教室 R6.8～開始 （前期 開催回数：18回、参加者延数： 427人）

自己評価結果

※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること

【○】

〈認知症サポーター養成講座〉

- ・学校関係や、民生児童委員協議会等への周知を行い開催に結びつけることが出来た。

〈通年型運動教室〉

- ・市HPやからだカルテアプリ^{※1}等を通じての参加募集や、運動教室に参加したことがある方々への勧奨により、定員以上の申込みがあった。また、インセンティブとして健幸ポイント^{※2}の付与があり、ポイント活動が目的の一つという参加者もいることから、運動する高齢者数の増加にも繋がっている。

※¹ からだカルテアプリ

タニタが提供しているヘルスケアアプリ

※² 健幸ポイント

タニタと連携・協力して実施している「健幸まちづくりプロジェクト」のポイント

課題と対応策

〈認知症サポーター養成講座〉

- ・広報等で周知に努めているが、さらなる受講者の増加に向けて、各サークルや、講演会等で周知していく。

〈通年型運動教室〉

- ・参加者が多くなったことで会場の変更やスタッフ数の増加等検討が必要となった。

後期（実績評価）

| 実施内容 |
|---|
| 認知症サポーター養成講座 (後期 開催回数：回、受講者数：人) (全体 開催回数：回、受講者数：人) |
| 通年型運動教室 (後期 開催回数：回、参加者数：人) (全体 開催回数：回、参加者数：人) |
| 自己評価結果 |
| ※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること |
| 【】 〈 認知症サポーター養成講座 〉 〈 通年型運動教室 〉 |
| 課題と対応策 |
| 〈 認知症サポーター養成講座 〉 〈 通年型運動教室 〉 |

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

| | |
|------|-----|
| 保険者名 | 仙北市 |
|------|-----|

| | |
|------|--------------------------|
| タイトル | 住み慣れた地域で安心して生活を続けることができる |
|------|--------------------------|

| | |
|-----|--|
| 大目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域が目指すべき姿 など <p style="background-color: #f0e68c; padding: 5px;">優しさにあふれ健やかに暮らせる幸福度No.1 のまち</p> |
| 中目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき姿を実現するための具体的な目標 <p style="background-color: #a0c0ff; padding: 5px;">・認知症になっても住み慣れた地域で安心した生活を送る事ができる ・自主的・継続的に健康づくりや社会参加に取り組むことができる</p> |
| 小目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・目標達成のための具体的な施策 など <p style="background-color: #a0ffa0; padding: 5px;">・認知症を特別視しない認識が広まる。 ・外出頻度が増え、閉じこもり予防ができる</p> |

| 現状と課題 | |
|-------|--|
| | <p>本市の高齢化率は45%を超え、人口減少が進んでいる。また近年では、独居の方の相談事例が多く、その背景として家族が遠方に住む方や頼れる家族や親類のいない方も増えてきている。今後、要介護者や認知症の方の増加が見込まれるなか、高齢者の孤立や閉じこもりを防止するために生きがいを持って暮らしていく取り組みが重要になる。併せて認知症についての正しい知識の普及を行い、認知症になっても自分らしく暮らし続けることができる地域づくりを推進していく必要がある。</p> |

| 具体的な取組 | |
|---------|--|
| | (取り組みの対象者、参加者など) |
| ① | 小中学校、企業、市民、市役所職員向け認知症サポーター養成講座を開催する。サポーター、地域、本人を対象にステップアップ講座を開催しチームオレンジを1か所以上設置する。 |
| ② | 事業対象者や要支援認定者を含む市民を対象に、サービス・活動B（通所型）、サービス・活動D（訪問型）を実施する。 |
| (取組の内容) | |
| ① | 幅広い年齢層と分野の人を対象に認知症サポーター養成講座を開催し、認知症についての正しい知識の普及に努める。また、チームオレンジ設置の取り組みについても進めていく。 |
| ② | 通所型サービスB：主体となる住民団体に対し、事業対象者、要支援を含む市民の通いの場づくりに係る経費を支援することにより、閉じこもり予防や介護予防を図る。 |

訪問型サービス D：通院とそれに伴う買い物、または通いの場への送迎及び前後の付添支援を行う団体に対し補助金を交付する。

目標（事業内容、指標等）

- ①認知症サポーター養成講座受講者：350名
　　ステップアップ講座を開催（1回）
- ②サービス・活動B（通所型）：期間内に5団体
　　サービス・活動D（訪問型）：期間内に1か所以上設置

目標の評価方法

- 時点
 - 中間見直しあり
 - 実績評価のみ
- 評価の方法

施策の展開状況（整備状況、利用状況、運営状況）など

- ①認知症サポーター養成講座受講者の推移
　　ステップアップ講座の開催
- ②サービス・活動B（通所型）：団体数の推移
　　サービス・活動D（訪問型）：利用者数の推移

参加者への影響など

- ①受講後のアンケート結果を分析し、認知症に対する認識の変化を確認する。
- ②孤立や閉じこもりを予防し、健康長寿につながる。

地域への影響など

- ①新しい認知症観が広まり、認知症の方が地域で安心して暮らしていく。
- ②地域でのつながりが深まり、支え合いの地域づくりにつながる。

取組と目標に対する自己評価シート

| | |
|------|-----|
| 保険者名 | 仙北市 |
|------|-----|

| | |
|----|-------|
| 年度 | 令和7年度 |
|----|-------|

前期（中間見直し）

| 実施内容 |
|---|
| ①認知症サポーター養成講座受講者：12回開催 受講者135名 ステップアップ講座：未開催 |
| ②サービス・活動B（通所型）：4団体 サービス・活動D（訪問型）：1か所 |

| 自己評価結果 |
|--|
| ※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること |

| 自己評価【】 |
|---|
| ①認知症サポーター養成講座については、市役所職員を対象に2か所で開催、受講者20名、一般市民対象に5か所で開催、受講者80名、企業向けに4か所で開催、受講者33名、介護関係職員向けに1か所で開催、受講者2名だった。 前期の開催予定は達成しており、後期も計画に沿って養成講座実施予定である。 |
| ②サービス・活動B（通所型）は、既存の団体に周知及びチェックリスト実施し、4団体に補助。 サービス・活動D（訪問型）は、昨年9月に1か所設立。 |

| 課題と対応策 |
|--|
| ①市内小中学校向け講座は開催決定しているので、受講者数増のため一般市民、企業向けに周知を図る。 |
| ②通所型サービスBは、既存の4団体に補助している。今後も広報等での周知に力を入れる。 訪問型サービスDは1団体設置となったので今後も市民やケアマネジャーへの周知を行っていく。 |

後期（実績評価）

| 実施内容 |
|--------|
| 自己評価【】 |

自己評価結果

※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること

自己評価【 】

課題と対応策

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

| | |
|------|-----|
| 保険者名 | 美郷町 |
|------|-----|

| | |
|------|------------------|
| タイトル | 高齢者の自立支援・介護予防の推進 |
|------|------------------|

| | |
|-----|---|
| 大目標 | ・地域が目指すべき姿 など 高齢者が健やかで自立した生活を地域で営むことができる |
| 中目標 | ・目指すべき姿を実現するための具体的な目標 住み慣れた地域で活動的な生活を継続するため運動機能の低下予防 |
| 小目標 | ・目標達成のための具体的な施策 など リハビリ専門職等を活かした自立支援に資する取り組みの推進 |

| |
|---|
| 現状と課題 |
| 本町の高齢化率は42.9%（令和7年9月末時点）となっており、高齢者世帯が増える一方で、支えとなる世代の人口減少が進んでいる。日常生活圏域ニーズ調査では介護が必要になっても自宅や住み慣れた地域で過ごしたい方は半数を超える、認知症になってもできるだけ今まで通りのことを続けたいという方が多い。また、「転倒に関する不安がある方」は46.0%と他地域より多い傾向となっているが、介護予防のために「運動している」方は36.4%と他地域より少ない。 |
| このため、運動機能の低下予防や高齢者本人を取り巻く環境へのアプローチを含めた、リハビリ専門職等を含む自立支援に資する取り組みを推進していく。介護予防や重症化予防につなげ、日常生活に必要な力が衰えないよう、住民自身の有する能力を可能な限り活かし、「できること」への気づきと動機づけとなる働きかけを行う。 |
| また、専門職等を含む多様な主体による介護予防、健康づくりに関する普及・啓発に努め、高齢者が要介護状態になっても地域で安心して過ごしていくことを目指す。 |

| |
|--|
| 具体的な取組 |
| ◎地域リハビリテーション活動支援事業 |
| リハビリテーション専門職等が、住民主体の通いの場等に定期的に関与することにより、身体障害や関節痛があっても継続的に参加することができる運動法の指導等を実施し、要介護状態になっても参加し続けることのできる通いの場を地域に展開する。 |
| ◎サービス・活動C |
| ADL／IADLの改善、運動器の機能向上を目指し、専門職による指導を短期集中的に行う。高齢者の生活環境や介護環境を中心とした実態や意識を調査し、地域の課題や高齢者のニーズを的確に把握する。 |
| ◎介護予防教室（運動） |
| ふれあいサロン等参加者へ健康運動指導士による介護予防の体操等の指導を行う。 |

| 目標（事業内容、指標等） |
|--|
| 地域リハビリテーション活動支援事業の開催回数 サービス・活動Cの参加者数 介護予防教室（運動）の開催回数 |
| 目標の評価方法 |
| <ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/>中間見直しあり<input type="checkbox"/>実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">地域リハビリテーション活動支援事業の開催回数（年間7回以上）サービス・活動Cの参加者数（年間15人以上）介護予防教室（運動）の開催回数（年間7回以上） |

取組と目標に対する自己評価シート

| | |
|------|-----|
| 保険者名 | 美郷町 |
|------|-----|

| | |
|----|-------|
| 年度 | 令和7年度 |
|----|-------|

前期（中間見直し）

| 実施内容 |
|---|
| ① 地域リハビリテーション活動支援事業は前期1回開催済み。後期で9回開催予定。自宅で継続可能なリハビリが好評で、続けていきたいという声が多く挙がった。 |
| ② サービス・活動Cは18回開催し、延べ52人が参加した。介護予防サービス・支援計画を作成し、目標や課題を確認し、参加者および専門職等で共有した。 |
| ③ 介護予防教室（運動） 実際に体を動かすことが楽しく、リフレッシュになるとの意見が多かった。前期6回、後期で5回開催予定。 |

| 自己評価結果 |
|--|
| ※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること |
| ① 実績1回／目標7回以上：達成率14.2% |
| ② 実績6人／目標15人以上：達成率40.0% |

| 課題と対応策 |
|---|
| ① 個別のケアプランへの支援については利用がない。昨年度から始めたリハ職による講話の事業が継続できている。 |
| ② サービス卒業後のフォローアップが課題である。 |
| ③ 参加者の固定化、減少が課題である。 |

後期（実績評価）

| 実施内容 |
|------|
| |

| 自己評価結果 |
|--|
| ※達成度の設定方法（5段階評価、○・△・×など）は問わないが、評価の根拠を明確にすること |

| 課題と対応策 |
|--------|
| |

